

第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	児童虐待対策本部
タイトル	児童虐待ゼロ～制度改革～		
テーマ群	g)その他		
メンバー	荒木 彩夏 西川 柊 野口 達成 元田 瑛己 山村 彩乃 脇野 夢彩		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>近年、保護者による児童への虐待事件がメディアで大きく取り上げられている。厚生労働省によると「児童相談所での児童虐待相談対応件数」は増加の一途をたどり、令和 3 年度には 207, 659 件になった。これに伴って児童福祉司の業務が急増し、虐待死のリスクのある家庭に目が向きにくくなっている。さらに、警察や裁判所の介入が不十分であるために児童相談所に業務がほとんど偏っているのが現状だ。</p> <p>なぜ児童虐待が問題なのか。「児童虐待の防止に関する法律」の第 1 条には、児童虐待は「児童の人権を著しく侵害し、その心身の成長及び人格の形成に重大な影響を与えるとともに、我が国における将来の世代の育成にも懸念を及ぼす」とある。友田(2011, p. 10)は、「小児期に受ける虐待は脳の正常な発達を遅らせ、取り返しのつかない傷を残しかねない」、「極端で長期的な被虐待ストレスは、(中略)様々な反社会的な行動を起こすように導いていく」と述べる。わたしたちはどうしたら虐待を減らせるのかを考えたい。</p> <p>【研究内容/期待される効果】</p> <p>研究の目的は、虐待による被害を減らすための制度改革を提言することである。まず、過去の虐待死事件を検証する。次に、日本の制度を諸外国と比較し、問題点を整理する。最後に、虐待をいかに未然に防ぐか、裁判所や警察等の関係機関とどう連携すべきか、保護者への再教育はどうあるべきかを述べたい。</p> <p>独自の研究として、児童相談所をはじめ、児童館や幼稚園等の関係機関にインタビューやアンケート調査を実施する。児童相談所では現行制度の抱える問題について、児童館や幼稚園では虐待防止の意識や対策について尋ねる。</p> <p>日本における制度や児童相談所が抱える課題は多い。虐待予防・対応の最前線で働く人の声を聴き、諸外国の制度を整理して、今後どのような改革を行うべきかを提示する。出生率低下の議論がさかんだが、その改善ためにも子どもが幸せな社会をつくらなければならない。この研究はそのための第一歩になる。</p> <p>【参考文献・引用文献】</p> <ul style="list-style-type: none">・慎泰俊 (2017) 「ルポ 児童相談所」ちくま新書。・厚生労働省 令和 3 年度 児童相談所での児童虐待相談対応件数(速報値), https://www.mhlw.go.jp/content/000863297.pdf, 2022 年 10 月 21 日閲覧。・厚生労働省 児童虐待の防止等に関する法律(平成十二年法律第八十二号), https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv22/01.html, 2022 年 10 月 22 日閲覧。・友田 明美 (2011) 「児童虐待が脳に及ぼす影響 -脳科学と子どもの発達, 行動-」, https://www.jstage.jst.go.jp/article/ojjsn/43/5/43_345/_pdf/-char/ja, 2022 年 10 月 23 日閲覧。		